

民報 ゆうばり

「アベノミクスを見抜き、くい止めよう」

「公債費減額」「再生計画の期間短縮」

日本共産党講演会Ⅱ 大門みきし参議をむかえて開催！

6月1日、岩見沢平安閣で日本共産党講演会が大門みきし参議院議員を講師に迎えて開催され、夕張からは、16名が参加しました。

主催者を代表して上田南空知地区委員長は「安倍内閣は『アベノミクス』でもはやされているが、賃金や雇用問題の解決に道を閉ざしている。

今日は、経済問題のスベシヤリスト大門みきしさんの講演を聞き、共産党を大きく支持を広げる力にしましょう」とあいさつしました。



目頭「公示まであと一か月、紙智子さんを含めて比例候補の5人全員当選と選挙区候補森つねとさんの必勝のためにお力添えをよろしく」と述べました。

労働対策部は新時代の日経営で、これまでであった終身雇用制度を改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これ度の改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

の日本経営で、これまで度度改める方針をとり、1995年白公政権が労働法制を改悪して非正規雇用を多くした。これまで1世帯あたり年100万円

これは小泉内閣で試されずみもの。バラマキ復活で借金の山をつくるばかりである。景気は最低賃金の引き上げで庶民の懐を温めること以外に道はない。

おつた政策は一部の投資家のもうけになっている。食料品や光熱費などあがり庶民の暮らしは圧迫されるばかり。

「アベノミクス」を見抜き悪政をくい止めよう

多くの国会議員は東芝や三菱などの要求でヨルダンやトルコの海外に金もうけのために原発を売り込もうとしていることはおろかなこと。

ドイツではメルケル投機とバブルをあ

金融緩和で世の中にお金を溢れさせればデフレからインフレになるという理屈で、

公共事業で景気が良くなるか

「アベノミクス」とはなににか

安倍氏のアベと経済学のエコノミクスを合わせて造られた造語が「アベノミクス」といわれている。

これはデフレ克服のためにとられた経済政策で、15〜6年前から続いている物価安デフレーションからインフレーションによって円高を円安にすることで景気を良くしようとした金融政策のこと。

非正規雇用はなぜ生まれたか

1990年日経連の

**「夕張の再生を考える高齢者の会」年次総会
総務大臣・各方面に積極的な
陳情行動を展開！**

…運動の強化を誓い決議…

6月25日、清水沢研修センターにおいて「夕張の再生を考える高齢者の会」が年次総会を開催し、60名が参加しました。

昨年4月に発足し、鈴木直道市長への要望書提出や市議会議員との交流会など、会員と共に取り組んだ経過について報告が行われました。

また、昨年9月の民主党総裁候補原口一博元総務大臣の来夕や、今年3月の新藤総務大臣と高橋はるみ知事来夕に際し、街頭陳情行動を実施したことなど、精力的に取り組んだことが報告されました。

さらに、昨年9月6日に木村けんじ日本共産党10区政策委員長(当時)と真下道議が来夕し、日本共産党が行った総務省との交渉内容について井形会長と柴田幹事長が報告を受け、その席で高齢者の会の考え方について説明し、理解と協力を要請したことなどが報告されました。

会場には来賓として鈴木市長と高橋市議会議員が出席し、それぞれ高齢者の会の活動を評価すると共に今後の活動に期待を寄せていました。

会は最後に「公債費の減額」「財政再生計画の期間短縮」を実現させるため強力な活動を展開するとの決議文を採択し閉会しました。

「北海道民医連」来夕！

5月27日、北海道民医連(勤医協)の事務局研修会で、15人のみなさんが夕張市を訪れ、くまがい桂子市議が同行しました。

まず、市長を表敬訪問し、30分ほど夕張の再生に向けた取り組みを懇談し、最

後は全員で記念写真も撮影しました。

市内視察では清陵町の炭鉱住宅・新鉱事故の慰霊碑や、以前同僚

であった南清水沢診療所の立花先生とお会いし、旧交を温めました。



その後、くまがい市議が財政破たんから6年、再生に向け

頑張っている夕張の現状や、高齢化した夕張市の実情、議会や市民団体の活動の様子、さらに、「被災地の子どもたちを夕張へ保養にお招きする」取り組みのお話をしたところ、その場で参加者からたくさんのお客様を集め、くまがい市議に手渡していました。



6月3日、クラウドファンディングは目標額を無事達成し、合計1,139,000円、139,000円を超過達成いたしました。

募金とともにお寄せいただいた、お一人おひとりのコメントでも、「ふるさと夕張で知り合いや同級生が頑張ってくれてうれしい」「長い活動になりますように」「大変有意義な活動に少しでもかかわってうれしいです」また、海外に居住の方からの温かい励ましなどの言葉もいただき、この取り組みを通じて連帯の輪が広がったことが、本当にうれしく、大きな励みにもなりました。

今後の予定は、今週末に3人のメンバーがいわき市・二本松市へ行って、保養合同説明会に参加します。そこで、今年8月に参加希望のご家族に申し込みをいただき、選考のうえ5組のご家族を決定します。そのときの報告など、今後もフェイスブックや、ブログに掲載いたしますので、ぜひ御覧下さい。

ご協力・ご支援、本当にありがとうございました。
(夕張夢再生館事務局 熊谷桂子)

国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

紙 智子

「安倍内閣に厳しい審判を下そう！」



ライラックの香りが風によってまち中にながれる季節になりました。今年は桜もこぶしもライラックも、ほぼ同じ時期に咲いています。南から北へ北上するはずが、稚内でも室蘭でも時期を同じくして八重桜が咲いています。五月三十一日は稚内市、六月一日は室蘭市、二日は新ひだか町で演説会がありました。稚内で三十五年ぶり、室蘭で二十四年ぶりに書記局長など党の幹部を迎えた演説会というのも、驚きでした。思い切って広い会場を確保し、広く案内活動を行って、市長さんや役場の職員や農協関係者が日本共産党の演説会に参加し、ごあいさつをしてくださったり、メッセージをよせてくれたりと、ありがたいことです。初めて参加した人が、「感動しました、応援します！」と感想を寄せてくれたことも励まされます。

会期末まで一カ月と迫った参議院本会議で、二〇一一年度決算について質問に立ち、震災当時の復興予算の流用問題について質しました。被災者の救済も進んでいないのに、なぜ、被災と関係の無い九州の道路や、自衛隊駐屯地の改修費などに使われたのか。

それは、民主、自民、公明の三党が「復興基本法」を修正し、目的に「日本再生」を入れ込んだためです。これを進めた自公民の責任は重大だと、安倍首相に迫りましたが、反省しているとは到底思えません。公示まで一カ月となった参議院選挙で厳しい審判を下しましょう！